

【目的】 ヒトは季節、環境等に応じて着衣行動を行っているが、この行動の男女差を解明するために本研究を実施した。着衣行動を促す要因として、気温、湿度、人体生理、社会的状況、生活環境、流行等が挙げられるが、そのなかで、男女の着衣行動の差が何に起因するのかを明確にすべく着衣実態調査を実施し、若干の成績を得たので報告する。

【方法】 調査は福岡県に居住する健康な大学生（2～4年）、男子51名、女子51名を対象とし、年間を通じ各季節毎に同一人について追跡調査を行った。調査時期は、1994年2月（冬季）、4～5月（春季）、8～9月（夏季）、10～11月（秋季）で、それぞれ晴天の日に大学構内で実施した。調査項目は、1，年齢、身長、体重および気温、湿度（屋内外別）、2，衣服の着用目的および温冷感・快適感（屋内外別）、3，衣服の着用状況および重量（屋内外別）である。温冷感は9段階、快適感は4段階尺度を用いた。調査結果は季節別に集計し、男女間で比較検討を行った。

【結果】 1，屋外での単位体表面積当たりの衣服重量は、冬季・男子1159.5g/m²、女子920.9 g/m²、春季・男子 841.8g/m²、女子 745.0g/m²、夏季・男子 464.0g/m²、女子464.3 g/m²、秋季・男子 922.7g/m²、女子 707.5g/m²であり、冬・秋季において男子は女子より有意に大である。（ $P<0.05$ ） 2，男女ともに、上衣重量は季節変化が大であるが、下衣重量は小であり、総衣服重量の季節変化は上衣に依存している。3，温冷感は、9段階尺度を用いた季節別男女比較では、女子は男子より冬季ではより「寒い」、夏季ではより「暑い」と申告しており、有意差が認められる。これらについて更に検討し、報告する。